

# プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

## マラウイ共和国

## クーユ地域開発プログラム(MWI-182599)

### チャイルドストーリー

## 支援のおかげで腎臓の手術を受け、健康に成長できるようになりました

クーユ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすデニス君は、4歳になってもお漏らしが続き、いつもお腹がふくれていました。心配になった母親が診療所に連れて行ったところ、腎臓の病気と診断され、摘出手術が必要だと告げられました。しかし、4歳では手術を受けることができないため、もう少し大きくなるまで待つことになりました。一方で、手術を受けるには首都の病院まで行く必要がありましたが、そこまでの交通費や手術代を工面することは、母親にはどう頑張っても不可能でした。

同い年の子どもたちが学校に通う年齢になっても、デニス君はお腹の痛みでいつもぐったりして元気がなく、歩くのがやっとという状態だったため、家にいるしかありませんでした。「息子はどうなってしまうのだろう」と母親は心配で仕方がなかったと言います。

そんな時、デニス君の健康状態を知ったワールド・ビジョン(以下、WV)から手が差し伸べられました。7歳の時、WVが首都の病院までの交通費と手術代を支援し、デニス君は無事手術を受けて健康な体を手に入れることができました。今では友だちと一緒に学校に通い、家のお手伝いもできます。「大きくなったら学校の先生かサッカー選手になりたい」という夢も持てるようになりました。

「今息子が元気でいられるのは支援のおかげです。息子の命を救ってくださり、本当に感謝しています。」母親はデニス君の健康を心から喜んでいます。



腎臓の手術を受けて元気になったデニス君(9歳)。家のお手伝いもできるようになりました



母親と兄弟とともに。左から2人目がデニス君

教育プロジェクト

就学年齢の子どもたちが平等に教育を受ける機会を得られるよう活動しています

2014年度は、地域住民が教育についての意識を高め、自ら子どもたちの教育に責任を持つことを目指して活動しました。住民と県の教育担当官との対話の機会を設け、この結果2014年度は3人の教師の増員や、教科書など必要な教材の提供を県から受けることができました。また住民の中には、遠

方から通う教師のために、自発的に宿舎を建てるための資材を提供する人もいました。

子どもたちの学力も向上しており、小学校修了試験に合格する割合は2011年度の47.5%から、2014年度は52.0%に上がりました。

 52%の子どもたちが初等学校修了試験に合格

校舎ができる前は木の下で勉強していました。雨が降ると授業が中断し、降り止むまで待たなければなりませんでした。これからは雨が降っても勉強が続けられます



以前子どもたちは床に座り、自分のひざを机がわりに勉強していました。新しい机とイスを提供していただき、勉強しやすくなりました

支援により提供された机とイスで勉強する子どもたち



支援によって建設された新しい校舎を喜ぶ子どもたち

農業プロジェクト

農畜産業を強化し、家族の経済状況の改善に取り組んでいます

2014年度は、地域内の農家146人を対象に、家畜小屋78戸の建設を支援しました。家畜小屋によって、家畜は悪天候や捕食動物から守られるようになりました。

また、農家がADPに提供されたヤギを育て、子ヤギが生まれた場合、地域のほかのメンバーに子ヤギを譲渡する方法により、農畜産家の生計向上に取り組んでいます。ヤギのミルクは住民の栄養状態の改善にも役立っています。さらに、農作物を害虫や病気から守る方法について、関係者による12回の会議が行われました。ここで話し合われた情報は、地域政府関係者により支援地域の6,700世帯に伝えられました。



建設された家畜小屋で鶏を飼う地域住民

 146人の農家が家畜小屋を建てました

保健・栄養プロジェクト

## 5歳未満の子どもたちと母親の栄養状態改善に取り組んでいます

2歳未満の子どもを持つ2,088人の母親を対象に、母乳育児の大切さを伝える研修を行いました。参加者は必要な知識を身につけただけでなく、互いに母乳育児の大切さをはじめとする子育てに必要な情報を交換しあうことができるようになりました。また、子どもたちが適切な量と質の食事を摂

ることができるように、5歳未満の子どもを持つ2,500人の母親を対象に、食事に関する研修を行いました。さらに、子どもや子育て世代の母親が十分な微量栄養素を摂取できるよう、3,513人に栄養補助剤や虫下し剤を配布しました。



配布されたビタミン剤を受け取る子どもたち



トイレに行った後や食事の前の手洗いの習慣が身に付いてきました

トイレの後に手を洗うことで病気を避けられると知りました



**3,513**人のお母さんが栄養改善の研修に参加



### 支援地域の女性のインタビュー

## 支援によって女性が夢を持てるようになりました

**Q.ADPのどのような活動に参加していますか。**

作物の種子の選別や貯蔵についてのADPの訓練を受け、「種子銀行」のメンバーとして活動しています。「種子銀行」では、良質の種子を選別して共同で蓄え、翌年の種まきに備えています。

**Q.活動によってどのような変化がありましたか。**

以前は質の良い種子の選別方法や適切な貯蔵方法について、よく知りませんでした。しかしこれらの方法を学び、倉庫で適切に保管された良質の種子をまいた結果、大豆の収穫量を増やすことができました。

**Q.今の夢を教えてください。**

家族のために家を建てるのが夢でしたが、収穫した作物を売って得たお金で家を建て始めることができ、夢は叶いつつあります。雨漏りしない金属板の屋根を取り付けたいと思っています。



「種子銀行」のメンバー。いちばん右がインタビューに答えたドリカさん(35歳)



ADPの支援で建設された倉庫で保管している大豆の種を手にするドリカさん



## ADP マネージャー・インタビュー

### Q.ADPで毎日どのような仕事をしていますか。

ADPの責任者として、与えられている予算などの資源を有効に使って、地域の子どもたちや人々の生活を改善するための活動が実施されるよう、スタッフを導く仕事をしています。

### Q.2014年に仕事上大変だったことは何ですか。

新しくADPに配属になったスタッフが仕事に慣れるまで、何かと指導と励ましが必要でしたが、地域の人々と交流し、お互い親しみが増していく中で、問題はなくなっていました。

### Q.WVで働く原動力となっているものは何ですか。

地域の人々のために働き、彼らの生活に良い変化をもたらすことができることに、喜びを感じています。



クーユADPマネージャー カスジ・コネックス・ムバルコ (35歳)

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



チャイルド・スポンサーへの手紙を書く子どもたち

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

## 会計報告

MWI - 182599

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

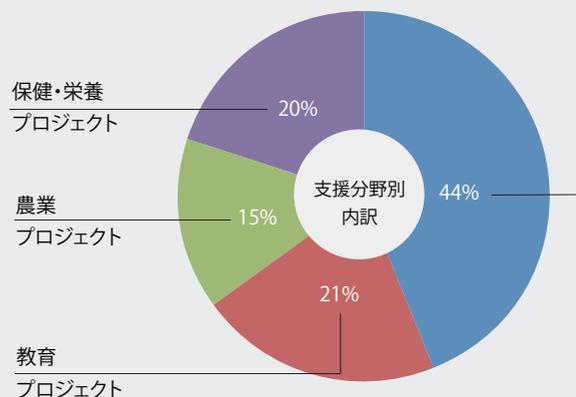
### プログラム支援額(単位:円)

|                |            |
|----------------|------------|
| チャイルド・スポンサーシップ | 59,347,294 |
| 当期支援額          | 59,347,294 |
| 前期繰越金          | 2,066,565  |
| プログラム支援額合計     | 61,413,859 |

### プログラム支出額

|                        |            |
|------------------------|------------|
| スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト | 27,770,622 |
| 教育プロジェクト               | 13,367,427 |
| 農業プロジェクト               | 9,258,462  |
| 保健・栄養プロジェクト            | 12,434,213 |
| プログラム支出額合計             | 62,830,724 |
| 次期繰越額                  | -1,416,865 |

### スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



## お問い合わせ

特定非営利活動法人 **ワールド・ビジョン・ジャパン**  
電話 : 03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)  
FAX : 03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ : [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)  
e-mail : [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp)